

頭足類動物をモチーフにした造形

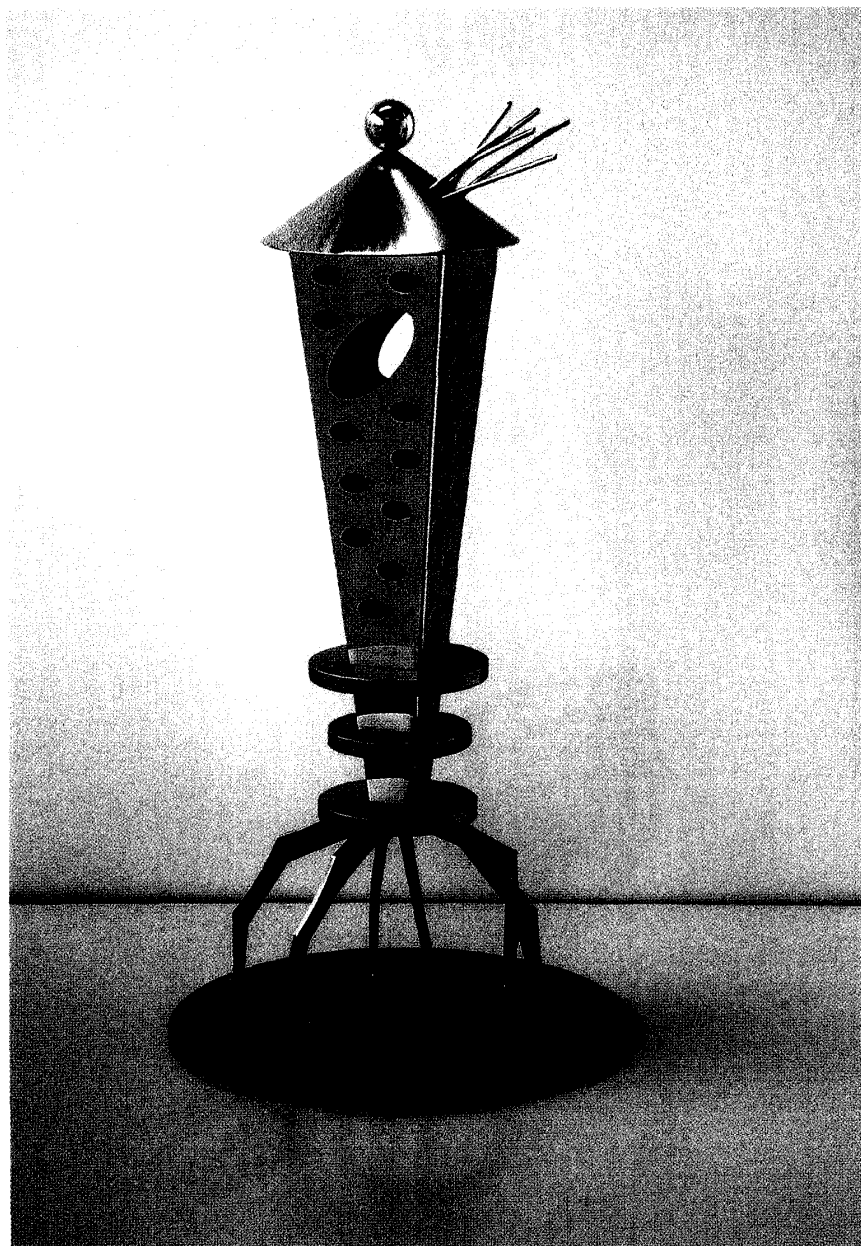
著者	阿部 典英
雑誌名	生涯学習研究と実践 : 北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要
巻	8
ページ	1-11
発行年	2005-03-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002278/

頭足類動物をモチーフにした造形

Art Pieces with the Motif of a Cephalopod

阿 部 典 英

ABE, Norihide (Ten-ei)



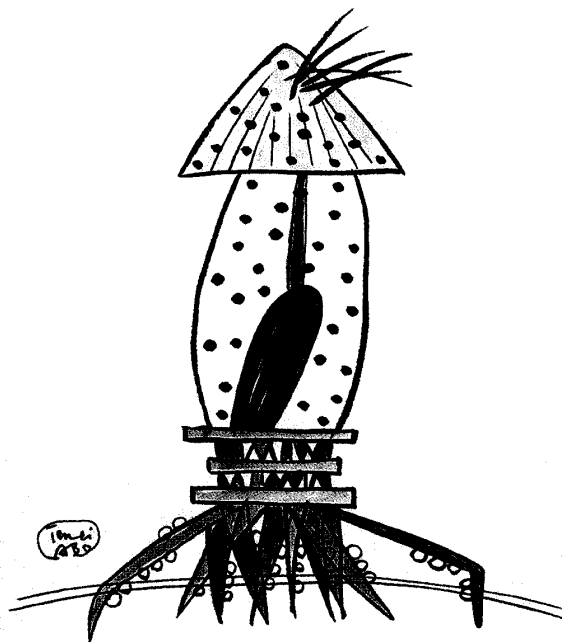
ネエ ダンナサン あるいは のびのび
ステンレス、塗料



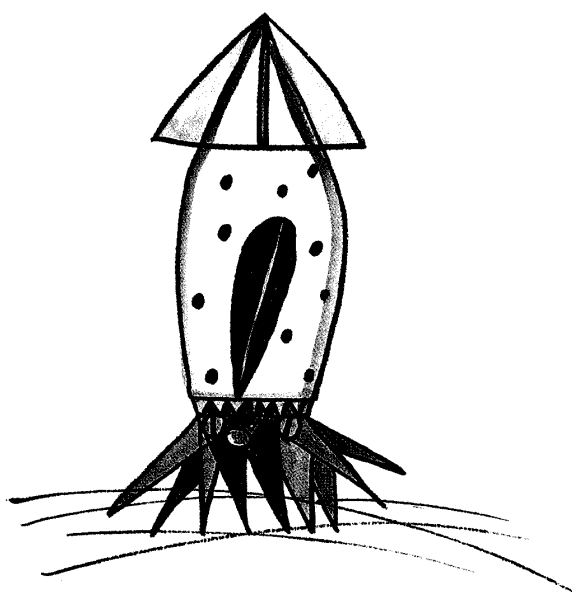
イカ（烏賊）のスケッチ



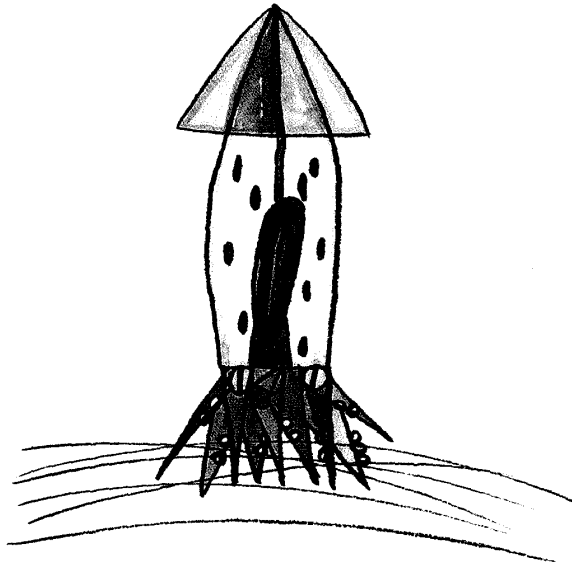
イカのイメージ



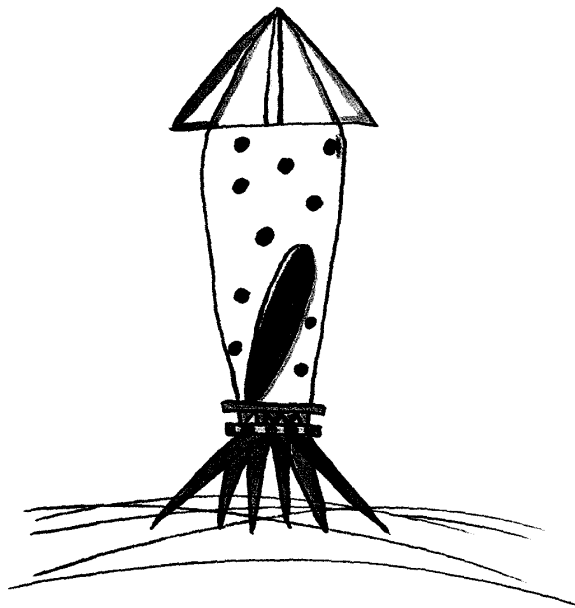
アイデア — (1)



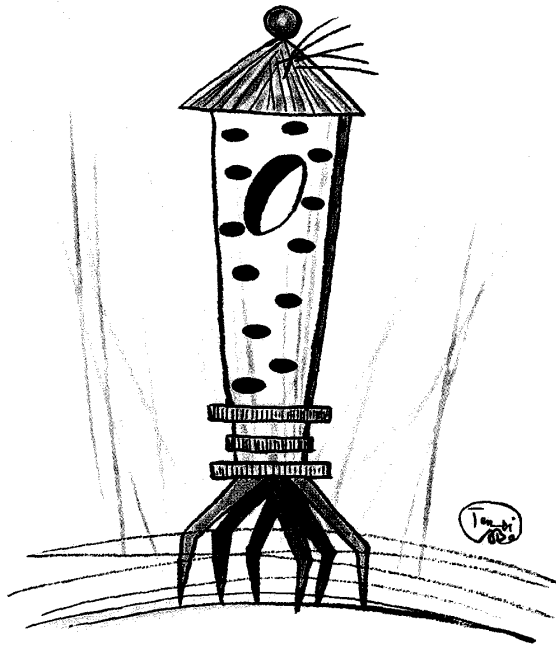
アイデア — (2)



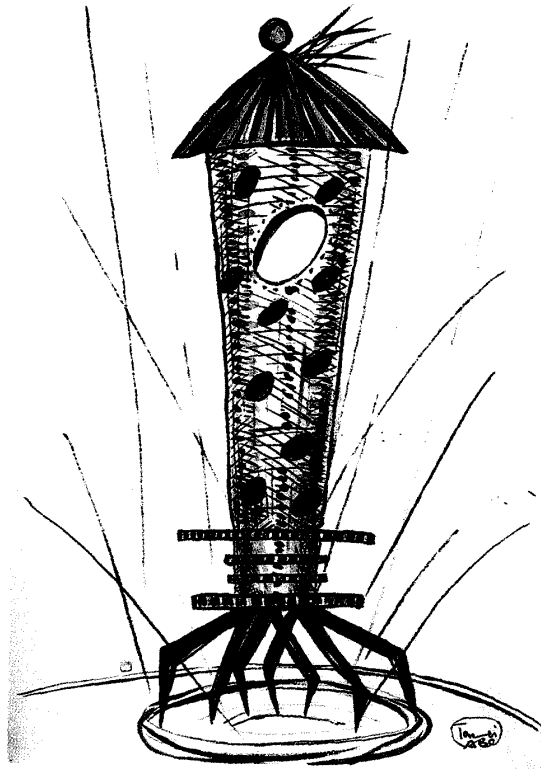
アイデアー(3)



アイデアー(4)



アイデア — (5)



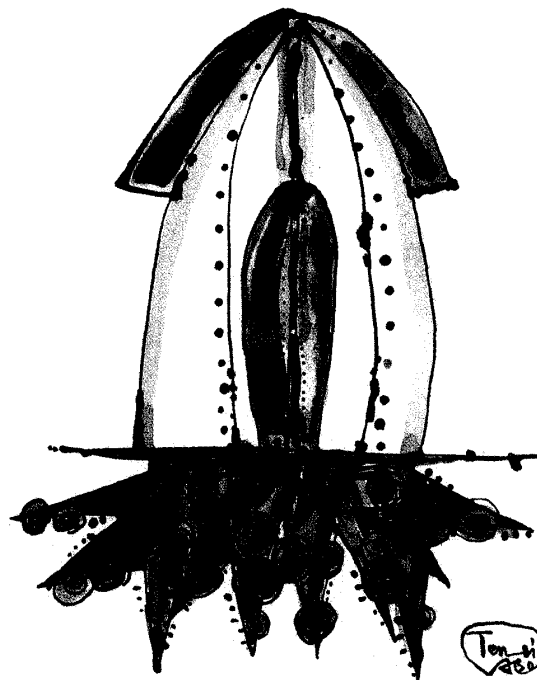
アイデア — (6)



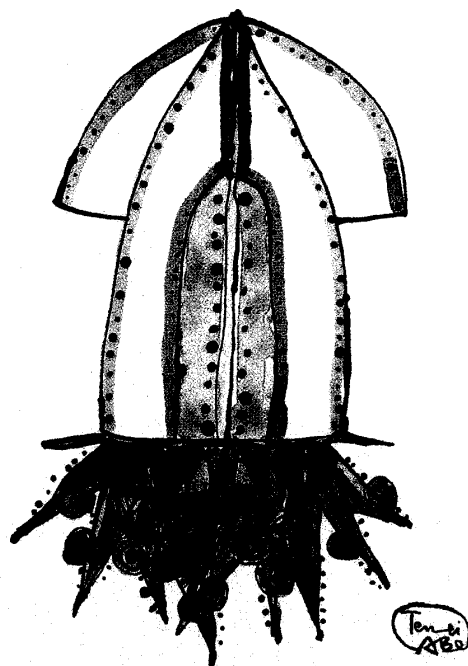
ネエ ダンナサン あるいは ゆっくりゆっくり
ステンレス、塗料



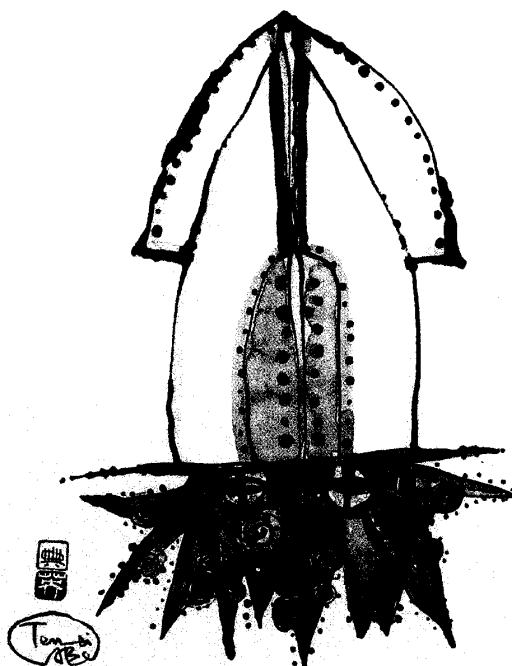
アイデア — (1)



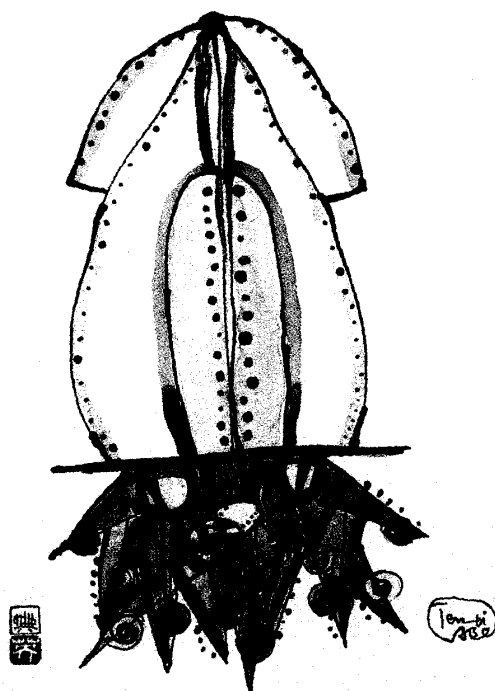
アイデア — (2)



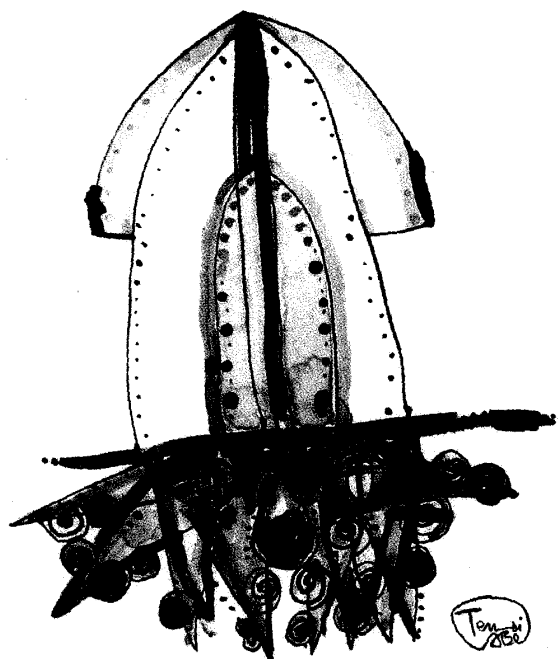
アイデア — (3)



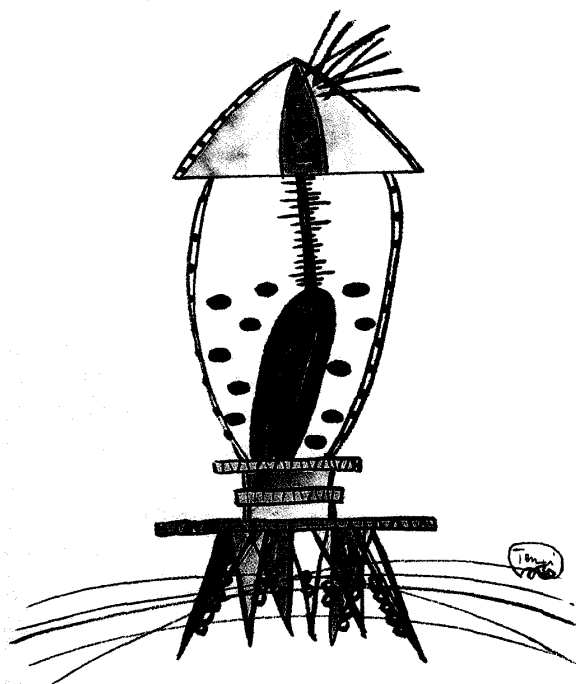
アイデア — (4)



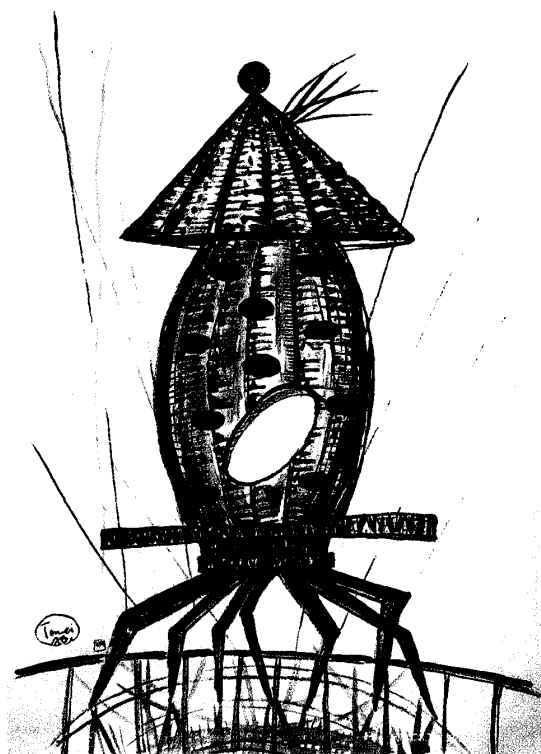
アイデアー(5)



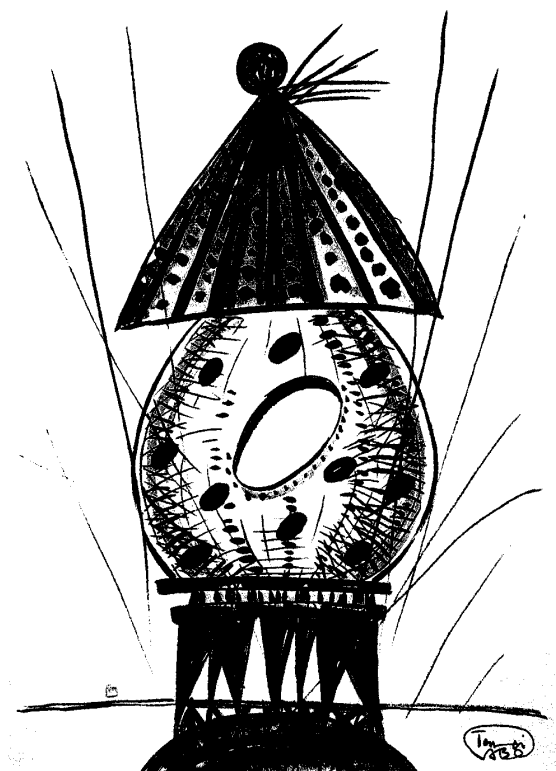
アイデアー(6)



アイデア — (7)



アイデア — (8)



アイデア — (9)

腕白時代を過した片田舎は、目の前が海だった。村の生活の糧は殆んど魚であったが、その中でも特に豊富に獲れたのが、烏賊（イカ）であった。現在の様に機械と多量の集魚灯によるものではなく、手釣であった。村では「イカツケ」にいくと漁のことを表現していた。夕方になると村の男達は4～5名で、それぞれ木造のポンポン船で沖に向かっていった。夜になるとカーバイトによる灯りが海の上にユラユラと映る漁り火があった。

早朝に大漁で帰港する時は、大漁旗を立ててそれを知らせる。村は活気に満ち、子供達も手伝う。小学校の校長先生が手籠を自転車に載せ、村を一周し、その手籠にイカが溢れる程村人が差し出すと休校になった。子供に手伝わせる為に親は競うように手籠に入れていた。

スーパーマーケットや市場でイカを見つけると当時のことが頭に蘇ってくる。スルメにするまでは結構、手間がかかる作業であったが、それをこなす為にもさらに子供の手は必要であった。手伝うとほんの僅かであったがお駄賃がもらえた。イカを見ながら、こんな腕白時代の想いを頭に浮かべていたら、イメージがふっと湧いてきた。アイデアの段階から試作までをまとめてみた。